

第1学年生活科学習指導案

日 時 令和元年10月3日(木) 2校時
児 童 南富良野町立南富良野小学校第1学年
男子10名 女子5名 計15名
指導者 斎藤 一樹

1 単元名「あきとともにだちになろう」

2 単元について

(1) 内容とのかかわり

本单元第1次では、学習指導要領の内容（5）「身近な自然を観察したり、季節や地域の行事に関わったりするなどの活動を通して、それらの違いや特徴を見付けることができ、自然の様子や四季の変化、季節によって生活の様子が変わることに気付くとともに、それらを取り入れ自分の生活を楽しくしようとする。」。第2・3次では、学習指導要領の内容（6）「身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりするなどして遊ぶ活動を通して、遊びや遊びに使う物を工夫してつくることができ、その面白さや自然の不思議さに気付くとともに、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとする。」を、具体的な活動や体験の中心として単元を構成している。

内容（5）は、春、夏、秋、冬をとおして、子どもたちが季節の変化に気付くような学習活動を行う。具体的には、校地内の森林の探検、地域の自然体験施設であるどんころ野外学校の探検を行う。同じ場所、同じ道順を、季節をとおして観察することで、「違いや特徴を見付け」ることや、「自然の様子や四季の変化、季節によって生活の様子が変わることに気付く」ことにつながると考える。本单元「あきとともにだちになろう」では、特に、夏から秋へ季節が変わることによる、木の実や木の葉、草、花、虫、川などの変化に気付き、それらを生かして十分に遊ぶ学習活動を行い、第2次へつなげていく。

内容（6）は、第1次の経験を生かして、遊びやかざりを考えたり、遊びに使う物やかざりなどを作ったりするなど、子ども自身が思いや願いをもって主体的に遊びを考えていくような学習活動を行う。具体的には、第2次の前半では、秋の自然物を使って、「自分が楽しめるものを作りたい」という思いや願いをもって、遊びやかざり作りに取り組む。第2次の後半では、友達との交流を通して「人が楽しめるようなものを作りたい」という思いや願いをもって、保育所の子たちが楽しめるあきのたからものランドを開くために、遊びやかざり作りに取り組む。第3次では、実際に保育所の年長児を学校に招待し、「保育所の子たちに楽しんでもらいたい。」という思いや願いをもって、あきのたからものランドを開く学習に取り組む。友達と交流することを通して、自分の思いや願い、学級の思いや願いを明確にして学習に取り組むことで、「遊びや遊びに使う物を工夫してつくる」ことにつながると考える。

(2) 児童について

南富良野町は人口がおよそ2600人の町であり、本学級の児童の多くが住む南富良野町幾寅地区は、北海道の都市部に比べると自然の多い、山間部の地域である。しかし、その幾寅地区も、南富良野町の中では中心部であり、多くの児童の生活圏内には、日常的に触れることのできる自然は少ない。また、児童の保護者の職業は、公務員7名、福祉系6名、農業2名、サービス業(自然体験系)1名であり、山間部の学校ではあるが、保護者が自然に関わる仕事に従事している割合は少ない。そのため、幼少期より自然体験を多くしている児童は1,2名と少なく、多くの児童は日常の自然体験に乏しいと言える。そのため、今年度の生活科の学習では、山間部の地域の特色を生かし、近隣の自然体験施設どんころ野外学校を利用した学習を行っている。

今年度、生活科の内容（5）の学習では、すでに春と夏の2回にわたってどんころ野外学校の探検を行った。本学級は、授業中や体験活動中に、思ったことや感じたことを積極的に発言する児童が多く、また、友達に積

極的に伝えるわけではないが思ったことや感じたことを独り言のように発言する児童も多い。そのため、過去2回の野外学校の探検では、自然物の形や色、春から夏の変化についての様々なことに気付くことができていた。しかし、活動中に気付いたことを、友達に言葉で伝えたり、振り返りとして文章で書いたりすることに苦手意識を感じる児童も多く、また、活動中に気付いたことを、自覚できていない児童も見受けられる。そのため、生活科の学習では、自分の気付きを自覚し表現する力を重点的に育成していく。

(3) 単元の目標

学びに向かう力、人間性等

身近なものを使って自分の思いや願いに合った遊びやかぎりをつくろうとしたり、友達と関わり合いながら、協力して遊びを楽しくしようとしたりする。

知識及び技能の基礎

自然物や身近なものを使って遊びやかぎりをつくって遊ぶ面白さ不思議さや、工夫することでより楽しい遊びをつくり上げることができた自分の成長に気付く。

思考力、判断力、表現力等の基礎

自分の思いや願いに合った遊びやかぎりについて考え、その過程で気付いたことや考えたことを、言葉や文章で表現する。

(4) 単元の評価規準

ア 生活への関心・意欲・態度	イ 活動や体験についての思考・表現	ウ 身近な環境や自分についての気付き
身近な自然の様子や四季の変化に関心をもって観察したり、思いや願いをもって自然物を利用した遊びや飾りづくりに取り組んだり、みんなで楽しく遊ぼうとしたりしている。	身近な自然の様子や四季の変化について自分で考えたり、自分の思いや願いに合った遊びや飾りやその遊び方を考え、工夫してつくったりし、そのことを言葉や文章で表現している。	身近な自然の様子や四季の変化、自分の思いや願いに合った遊びや飾りやその遊び方を考えることの面白さや不思議さ、工夫することでより楽しい遊びをつくり上げることができた自分の成長に気付いている。

(5) 学習活動における具体的評価規準

次	ア 生活への関心・意欲・態度	イ 活動や体験についての思考・表現	ウ 身近な環境や自分についての気付き
1	① 木の実や葉、花、川、生き物などの様子、夏から秋にかけての変化に関心をもち、みんなで楽しく観察したり遊んだりしようとしている。	① 季節が秋になることについて予想したり、自然探検を通して気付いた面白さや不思議さを文章に書いたり友達に伝えたりしている。	① 自然探検を通して、木の実や葉、花、川、生き物などの様子、夏から秋にかけての変化の面白さや不思議さに気付いている。
2	② 自然物を利用した遊びやかぎりづくりに関心をもち、思いや願いをもって遊びや飾りづくりに取り組んだり、みんなで楽しく遊ぼうとしたりしている。	② 自分や友達が考えた遊びやかぎりづくりに取り組むことを通して気付いた面白さや不思議さをもとに、自分が作りたい遊びやかぎりを実現するための工夫について考え、それを文章に書いたり友達に伝えたりしている。	② 自分や友達が考えた遊びやかぎりづくりに取り組むことを通して、秋の自然物を使った遊びの面白さや不思議さに気付いている。
3	③ 自分や友達が考えた遊びやかぎりで保育所の子と遊ぶことに関心をもち、友だちと協力して保育所の子を楽しませてあげようと取り組んだり、みんなで楽しく遊ぼうとしたりしている。	③ 自分や友達が考えた遊びやかぎりづくりに取り組むことを通して気付いた面白さや不思議さ、自分の成長をもとに、保育所の子が遊びを楽しんでいる姿に思いをもち、それを文章に書いたり友達に伝えたりしている。	③ 自分や友達が考えた遊びやかぎりで保育所の子と遊ぶことを通して、秋の自然物を使った遊びの面白さや不思議さ、工夫することで保育所の子が楽しめる遊びやかぎりを作ることができた自分の成長に気付いている。

(6) 指導について

○気付きを引き出すために

小学校学習指導要領解説生活編には、次のように示されている。

生活科でいう気付きとは、対象に対する一人一人の認識であり、児童の主体的な活動によって生まれるものである。そこには、知的な側面だけではなく、情意的な側面もふくまれる。

これにより、児童の気付きを引き出すには、児童の主体的な活動を取り入れることが必要であることがわかる。また、その活動を通して、発見をしたり疑問をもったりアイデアを浮かべたりすることが大切であり、そのためには、対象に没頭させることが必要であると考える。

そのため、本単元では、木の実や葉などの収集した物を使う遊びやかざりづくりに没頭させる活動を設定する。具体的には、②③④時のどんころ野外活動の学習と⑤時のふり返りの後、計画を立てる活動を行わず、⑥⑦時においてすぐに遊びかざりづくりの活動、⑫⑬⑭時のお店づくりの活動などを設定する。自分たちで拾ってきた物を使って作りたいという思いや願いを生かすことが、児童の主体的な活動につながると考える。

○気付きの質を高めるために

小学校学習指導要領解説生活編には、次のように示されている。

無自覚だった気付きが自覚されたり、一人一人に生まれた個別の気付きが関連づけられたり、対象のみならず自分自身の気付きが生まれたりすることを、気付きの質が高まったという。

例えば、比べたり分類したりすることによって、ある気付きと別の気付きとの共通点や相違点、それぞれの関係や関連が確認されたときなどに、気付きの質が高まったという。

これにより、児童の気付きの質を高めるには、気付きを自覚したり、個別の気付きを関連づけたり、自分自身の気付きを自覚することが必要であり、さらに、自分の気付きと友達の気付きを比べて、共通点や相違点、関係などを確認することが必要であることがわかる。

そのため、本単元では、教師が見とった児童の気付きを短冊に記入した教室掲示に取り組んでいる。そして、適宜その掲示物について振り返り、教師が児童の気付きを価値付けしている。それにより、児童が自分の気付きを自覚することにつながると考える。また、掲示した短冊を、「よそう」「はっけん」「たとえる」「アイデア」「ふしき」「くらべる」といった視点でラベリングしている。それにより、児童の個別の気付きが与えられた視点によって関連づけられたり、自分自身の気付きについて自分で価値付けをしたり、同じラベルのついた気付きの共通点や相違点を考えたり、ラベルを気付きの視点として新たな気付きについて考えたりすることにつながると考える。

○自分の思いを表現するために

小学校学習指導要領解説生活編には、次のように示されている。

表現する際には、児童は、相手意識や目的意識に基づいて表現内容や表現方法を考えることになる。また、表現した結果から、考え直したり新たな思いや願いが生まれたりして、前の段階に戻つたり次の段階に進んだりする。このように生活科では、活動において思考や表現が一体的に行われたり繰り返されたりすることが大切である。

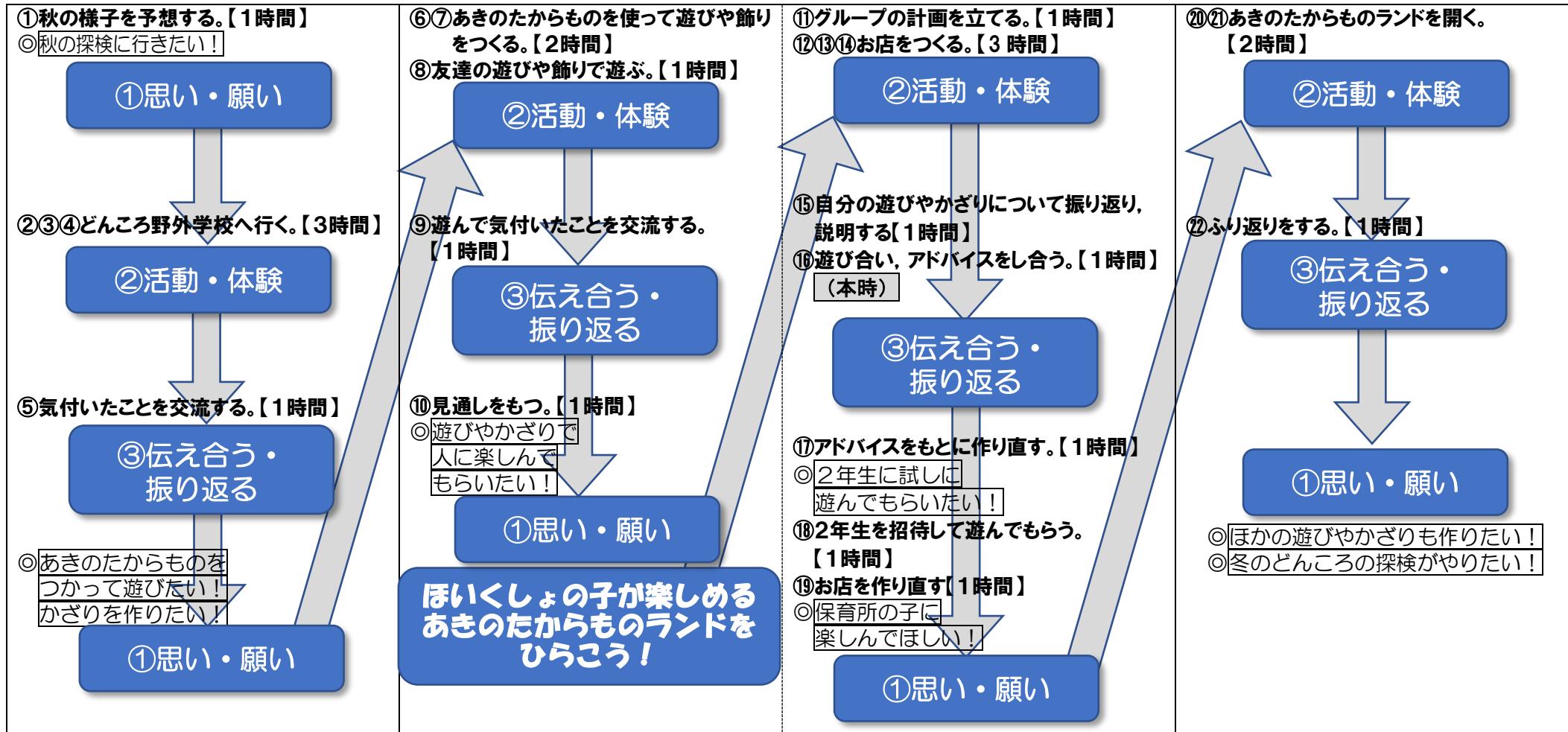
これにより、児童が思いや願いを表現するには、はっきりとした相手意識や目的意識をもつことが必要であることがわかる。また、表現することをとおして新たな思いや願いが生まれること、思考と表現が一体的に行われることなどを踏まえて、単元を構成することが必要であることがわかる。

そのため、本単元では、①思いや願いをもつ（～したい）、②活動や体験を行う（やってみる）、③振り返る（ふりかえる）という、単元の流れを児童と共有する機会を適宜取り入れている。それにより、児童自身が「何のためにワークシートに書くのか」「何のために交流するのか」という目的をはっきりもった上で表現することにつながると考える。

また、気付きや感想、友達へのアドバイスなどを書く際に、書く視点を与えるようにしている。それにより、児童が「誰に」「何のために」「何を伝えるのか」という相手意識や目的意識をはっきりもった上で表現することにつながると考える。

3 単元構想図 (◎児童の思い・願い)

1次（5時間）	2次（14時間）	3次（3時間）
あきをみつけにいこう！ 1次の目標 夏から秋への季節の変化の面白さや 不思議さに気付き、遊びつくりの活動 への関心を高める。	自分のつくりたい遊びや かざりをつくろう！ 2次の目標 秋の自然物を使って、友達と協力しながら遊びやかざりをつくることができる。	あきのたからものランドを開いて、保育所の子を楽しませよう！ 3次の目標 つくった遊びやかざりで遊んでもらうことで、自分の成長に気付く。



4 単元の指導計画（22時間）

1次 あきをみつけにいこう！（5時間）

1次の目標【夏から秋への季節の変化の面白さや不思議さに気付き、遊びつくりの活動への関心を高める。】

子どもの学習活動	□予想される児童の姿 ◇教師の働きかけ
<p>○活動 ☆気付き ◎願い ◆評価</p> <p>①秋の様子を予想する。【1時間】</p> <p>○春夏秋冬のどんころ野外学校を探検し、「違い」を見付ける学習をしていたことを思い出す。</p> <p>○春、夏にどんころ野外学校へ行った時のワークシートや、写真を見て、春、夏の様子を振り返る。</p> <p>○秋のどんころ野外学校の、春や夏との違いを予想し、ワークシートに書く。</p> <p>児童が予想すると思われる事柄</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆葉っぱの色が変わっていると思う。（比較・植物） ☆木の葉っぱが無くなっていると思う。（比較・植物） ☆花が枯れていると思う。（比較・植物） ☆木が枯れていると思う。（比較・植物） ☆前にあった花が無くなっていると思う。（比較・植物） ☆前にあった花の形が変わっていると思う。（比較・植物） ☆どんぐりが落ちていると思う。（比較・植物） ☆落ちているどんぐりの数が増えていると思う。（比較・植物） ☆新しい虫が増えていると思う。（比較・昆虫） ☆カタツムリはいなくなっていると思う。（比較・生物） ☆<u>夏に比べて</u>、川の水が冷たくなっていると思う。（比較・温度） ☆<u>夏に比べて</u>、寒くなっていると思う。（比較・温度） ☆寒くても虫はいるのかな。（疑問・昆虫） ☆ミズバショウのマイクはどうなっているかな。（疑問・植物） ☆おたまじゅくしはどうなっているかな。（疑問・生物） 	<p>◇春や夏にどんころ野外学校へ行った時の写真やワークシートを見せ、以前の気付きを想起させ、板書する。その上で、秋の様子を予想させる。</p> <p>◇春や夏と比較して発言する児童がいれば取り上げ、価値付けをする。 「春や夏に比べて…だと思う。」「夏は…だったけど、秋は～だと思う。」</p> <p>□自分の予想を言語化できていない。</p> <p>◇以前のワークシートをもとに、質問をしたり話しかけたりすることで、児童の気付きを引き出す。それにより、児童は自分の予想を自覚し、書く事ができる。</p> <p>「夏のどんころではなにを見付けたんだつけ？」 「葉っぱの色はどうなっていると思う？」 「○○くんは、『どんぐりの数が増えていると思う。』って言っているよ。どう思う？」</p>
<p>○自由交流をして友達の予想を知る。</p> <p>○全体の場で予想を発表する。</p> <p>↓</p> <p>☆自分と同じ予想をする友達がいたんだ。</p> <p>☆みんなも自分と同じように、探検を楽しみにしているんだな。</p> <p>↓</p> <p>◎秋のどんころ探検に行きたい！</p>	<p>◇探検の後に、板書の内容と違うことに気付ければ、春や夏と秋の様子は違う、ということを伝える。</p>
<p>②③④どんころ野外学校へ行く。【3時間】</p> <p>○どんころ野外学校へ行き、春や夏との違いを見付ける。</p> <p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆葉っぱの色が黄色い。（発見） ☆葉っぱの色が赤い。（発見） ☆木の葉っぱが無い。（発見） ☆葉っぱや木の枝が落ちている。（発見） ☆葉っぱの裏に虫がいる。（発見） ☆初めて見る虫がいる。（発見） ☆黄色や赤色の葉っぱが増えている。（比較） ☆葉っぱの色が、<u>夏は緑だったのに秋は黄色になっている。</u>（比較） ☆<u>夏と比べて</u>、花の数が少なくなっている。（比較） ☆<u>夏と比べて</u>、花の形や色が変わっている。（比較） ☆前は落ちていなかったのに、葉っぱが地面に落ちている。（比較） ☆前はぬるかったのに、川の水がとても冷たくなっている。（比較） 	<p>◇春や夏に比べて、木の葉や木の実など拾える物が多いことに気付いた児童がいれば取り上げ、価値付けをする。</p> <p>◇ビニール袋を用意し、拾った物を入れるように指示する。</p> <p>◇探検中や休憩時間に、拾った物で遊びを考えたり、飾りを作ろうとしたりしている児童がいれば取り上げ、価値付けをする。</p>

	<p>☆塞くなったから葉っぱの色が変わったのかもしれない（類推） ☆塞くなったから川の水が冷たくなったかもしれない（類推） ☆おたまじゃくしがいなくなっているので、かえるに成長したのかもしれない。（類推） ☆どんぐりが増えているから、春に落ちていたどんぐりは、去年の秋のどんぐりが残っていた物かもしれない。（類推） ☆赤と黄色の葉っぱを並べるときれいだな。（創造） ☆どんぐりに顔を描いたら人形になりそうだな。（創造） ☆どんぐりと葉っぱでかざりを作りたいな。（創造） ☆大きな葉っぱでお面が作れそうだな。（創造）</p>	<p>□自分の気付きに対して無自覚となっている。</p> <p>◇児童の発言を反復したり、価値づけをしたり、質問をしたりする。それにより、児童は自分の気づきを自覚する。</p> <p>「葉っぱの色がきれいだと思ったんだね。本當だね。」 「前よりもどんぐりがたくさん落ちていると思ったんだね。夏と比べているね。」 「どんぐりを使って人形が作れそうだと思ったんだね。よいアイデアだよ。」 「川の水を触ってみてどうだった？」 「どんぐりをたくさんひろったね。それで何か楽しいことはできないかな。」</p>
B	<p>☆楽しいな。 ☆違いがよくわからないな。</p>	<p>◆イー①〈行動観察・発言分析〉 ◆ウー①〈行動観察・発言分析〉</p>
	<p>○木の葉や木の実を採集する。</p>	
	<p>⑤気付いたことを交流する。【1時間】</p> <p>○気付いた春や夏との違いを数人に聞く。</p> <p>○気付いた春や夏との違いをワークシートに書く。 （見付けた物…絵、気付いたこと…文）</p>	<p>□自分の気付きに対して無自覚となっている、書くことができない。</p> <p>◇写真をもとに、探検の様子をふり返らせる。（見付けた物、気付いたこと、考えたこと、アイデア、楽しかったことなど）それにより、児童は自分の気づきを自覚する。</p> <p>「（写真を見せて）こんなもの落ちてなかった？」 「先生はどんぐり見付けたよ。○○くんも見付けなかった？」 「○○くんは、木の絵を描いているよ。」</p>
絵	<p>☆木の葉 ☆どんぐり ☆葉のある木 ☆葉の無い木 ☆花 ☆かえる ☆虫</p>	
文	<p>②③④時間目のような気付き</p>	<p>◆アー①〈行動観察・発言分析・記述〉 ◆イー①〈行動観察・発言分析・記述〉</p>
	<p>○自由交流をして、友達の気付いたことを知る。</p> <p>↓</p> <p>☆春や夏と比べて、捨てる物が多かったな。 ☆拾った物を使って、遊んだりかざりをつくりたりすると楽しそうだな。 拾った物=あきのたからもの（※仮。児童の言葉で。）</p> <p>↓</p> <p>○あきのたからものを使って、遊びたい！かざりをつくりたい！</p>	<p>□自分の気付きを言語化できていない。</p> <p>◇他の児童が書いている内容を、他の児童に伝える。それにより、児童は自分の気付きや友達の気付きを確認することができる。</p> <p>「『夏と比べて、黄色や赤色の葉っぱが増えている』って書いている人がいるな。いいことに気付いたね。同じことに気付いた人はいないかな。」</p> <p>◇遊びや飾りづくりに必要な材料を、次回までに持ってくるように伝える。</p>

2次 自分のつくりたい遊びや かざりをつくろう！（14時間）

【秋の自然物を使って、友達と協力しながら遊びやかざりをつくることができる。】

子どもの学習活動		□予想される児童の姿 ◇教師の働きかけ
○活動 ☆ 気付き ◎ 願い ◆ 評価		
<p>⑥⑦あきのたからものを使って遊びや飾りをつくる。【2時間】</p> <p>○あきのたからものを使って、遊びやかざりをつくって遊ぶ。</p> <p>遊びの予想</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎的あて系 <ul style="list-style-type: none"> ・的あて ・輪投げ ・魚釣り ◎手持ちの遊び系 <ul style="list-style-type: none"> ・けん玉 ・めいろ ・どんぐりごま ◎楽器系 <ul style="list-style-type: none"> ・マラカス ・太鼓（ばち） ◎アクセサリー系 <ul style="list-style-type: none"> ・首飾り ・頭に乗せる飾り ・ブレスレット ・お面 ・服 ◎飾り系 <ul style="list-style-type: none"> ・人形 ・貼り絵 <p style="text-align: right;">◆アー①〈行動観察・発言分析〉 ◆ウー①〈行動観察・発言分析〉</p> <p>☆楽しい遊び、かわいい飾りができたよ。 ☆自分で遊んでみたよ。楽しかったよ。</p> <p>↓</p> <p>◎友達の遊びや飾りでも遊んでみたい！ ◎自分の作った遊びや飾りで遊んで欲しい！</p>	<p>◇教室に、製作に必要と思われる材料や用具を用意しておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・つまようじ ・竹ひご ・たこ糸 ・毛糸 ・紙コップ ・ペットボトル ・牛乳パック ・空き箱 ・プリンカップ ・ビニール袋 ・針金 など ・ボンド ・ホットボンド ・きり ・カッター など <p>◇児童1人につき1つ以上の遊び・かざりをつくることを基本とするが、児童の思いや願いによっては、数名で1つの遊び・かざりをつくることもできるということを伝える。</p> <p>◇友達が作っている物に興味をもち、質問をしたり、遊んでみたりしている児童や、自分が作った物を友達に遊んで見せたり、説明している児童がいれば、取り上げる。</p> <p>◇材料の木の葉、どんぐり、くるみ、ななかまどの実、松ぼっくりを教師でも用意しておく。</p> <p>◇それでも材料が足りなくなったら、全員で校地内の森林へ行って、採集する。</p>	
<p>⑧友達の遊びや飾りで遊ぶ。【1時間】</p> <p>○お互いの作った遊びやかざりで遊んでみる。 ○遊びながら、友達への感想を付せんにかき、自分のワークシートに貼ってためていく。</p>		<p>◇遊んだあとに気付いたこと（面白かったこと、わかったこと）を書くという見通しをもつ。</p> <p>◇遊んでいる間に、友達への感想を付せんに書き、その後、友達の机に貼ることを伝える。</p> <p>□自分の気付きに対して無自覚となっている。</p> <p>◇児童の発言を反復したり、価値づけをしたり、質問をしたりする。それにより、児童は自分の気づきを自覚する。</p> <p>「かざりを作つてみたいって言つてたね。 どんなかざりを作つてみたかったの？」</p> <p>「〇〇くんが作った輪投げが楽しいって言つてたね。どんな所が楽しかった？」</p> <p>「回るのが不思議だと思ったんだね。」</p> <p>「いろいろな色があつてきれいだと思ったんだね。よく気付いたね。」</p> <p>「葉っぱやどんぐりを使って洋服が作れそうだと思ったんだね。よいアイデアだね。」</p>
<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆〇〇くんの的あては楽しいな。僕もつくりたいな。（比較） ☆〇〇くんのこまはよく回る。まねしてみたいな。（比較） ☆かざりを作るのも楽しそうだな。やってみたいな。（比較） ☆〇〇くん、これはどうやってつくったの？（疑問・比較） ☆どうして回っているのだろう。（疑問） ☆どうして音が鳴っているのだろう。（疑問） ☆どうやって人形が立っているのだろう。（疑問） ☆どんぐりを顔にするなんて面白いな。（友達の成長） ☆葉っぱでお面をつくるなんてすごいな。（友達の成長） ☆楽しんでもらえて嬉しいな。（自分の成長） ☆上手につくれてよかったです。（自分の成長） ☆また、つくり直したいな。（創造） ☆葉っぱを使って洋服もつくれそうだな。（創造） ☆いろんな色の葉っぱを使うときれいになるな。（創造） ☆どんぐりの先がとがっているからまわるのかもしれないな。（類推） <p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆楽しいな。 ☆むずかしいな。 <p style="text-align: right;">◆イー②〈行動観察・発言分析・記述〉 ◆ウー②〈行動観察・発言分析・記述〉</p> <p>○次時に、感想を交流することを確認する。</p>		<p>◇感想を書く時の視点を掲示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・比較、疑問、友達の成長、想像などの視点を子どもの言葉で表し、掲示する。

⑨遊んで気付いたことを交流する。【1時間】

- 感想を交流する。友達の所へ行き、感想を言ったあと、机に付箋を貼る。(ペア交流、指名)。
- 交流して気づいたことをワークシートに書く。
(面白かったこと、わかったこと、次はどうしたいか)

A	☆⑧時間目のような気付き ☆友達に「楽しかった」と書いてもらって、嬉しかった。(自分の成長) ☆〇〇くんに喜んでもらえて嬉しかった。(自分の成長) ☆もっと楽しい遊びを作つてみたい。(創造)
B	☆楽しかった。 ☆楽しくなかった。

- ◆イー②〈行動観察・発言分析・記述〉
◆ウー②〈行動観察・発言分析・記述〉

- グループ交流をして、友達の気付いたことを知る。また、友達に対して思ったことを伝える。

⑩見通しをもつ。【1時間】

- 前時のワークシートの全児童が書いた内容を見る。
↓
☆作った物で遊んでもらうと楽しいな。
☆喜んでもらうと楽しいな。
☆自分と同じように、遊んでもらって楽しかったと思っている人がいるんだ。
↓
◎人に楽しんでもらえるような、遊びや飾りをつくりたい！

◇友達の遊びや飾りで遊んでみてどう思ったか、数人に聞く。

◇友達の遊びやかざりで遊んで楽しかったことや、自分の遊びやかざりで友達が遊んでくれて嬉しかったことについてかいている児童がいれば、取り上げて、価値付けする

ほいくしょの子が楽しめる あきのたからものランドをひらこう！

- あきのたからものランドを開くために、必要な準備について、確認する。

- ・グループ分け（遊びごと）
- ・グループの計画を立てる
- ・遊びやかざりづくり
- ・ルールづくり
- ・お店づくり
- ・保育所の子に対して行う前に、自分達同士や2年生に対して行い、練習する。など

◇「保育所の子が楽しめる」ような催しにすることが共通のゴールであることを繰り返し伝える。

- あきのたからものランドまでの見通しをもつ。

- 〈大まかな見通し〉
- ・グループ分け、グループで計画を立てる
 - ・遊びやかざりづくり、お店づくり（その後振り返り）
 - ・2年生を招待して練習する（その後振り返り）
 - ・保育園児を招待して「あきのたからものランド」を開く

◇見通しがもちやすいように、⑩時間目終了後、掲示物を作る。

- あきのたからものランドで、自分が作りたい遊びやかざりを考え、ワークシートに書く。

- ◆イー②〈行動観察・発言分析・記述〉

<p>○自由交流をして、友達が作りたい遊びやかざりについて知る。</p> <p>↓</p> <p>◎こんな遊びやかざりをつくってみたい！ 今作っている遊びやかざりをもっとよくしたい！⇒<u>新たな思い・願い</u></p>	<p>◇はじめに自分がつくった遊びやかざりではなく、⑧⑨時間目に遊んだ友達の遊びを作ってもよいことを伝える。</p> <p>◇「保育所の子が楽しめる」を目指すために、どうすればよいか考えるように伝える。具体的には、⑥⑦時間目に作った遊びやかざりのよいところを、「保育所の子が楽しめる」の視点で価値付けする。</p> <p>「どんぐりが転がるから楽しいね。動かせると楽しめるよね。」</p> <p>「音が鳴るから、楽しめるよね。」</p> <p>「赤や黄色の葉っぱがあると、秋の色がよくわかるから、楽しめるんじゃないかな。」</p> <p>◇次時に、個々の作りたい遊びやかざりをもとに、グループを発表することを伝える。</p>
<p>⑪グループの計画を立てる。【1時間】</p> <p>○グループについての説明を聞く。</p> <p>○お店づくりに必要なことを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お店の名前（遊びかざりの名前） ・もっと必要な材料 　・ルール（遊びの場合） ・作る物（遊び道具、プレゼント、お店の看板、ルール表示、かざりつけなど） 　・役割分担 <p>・お店づくり</p> <p>…遊びかざりづくりに加えて、その遊び飾りで保育園児に遊んでもらうためのブースや、その配置、児童の役割分担、遊びのルールなど、本番で行うすべてをつくる。</p> <p>○グループの計画を立て、ワークシートに書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お店の名前 　・必要な材料 　・ルール（遊びの場合） ・作るもの 　・役割分担 	<p>◇児童にグループを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・⑩時の後、教師が同じ種類の遊びやかざりを選んだ児童をグループ分けしておく。 ・1グループ2人もしくは3人とする。5～8グループできることが想定される。同じ内容の遊びでも、3人以上となった場合は1グループ2、3人になるように分ける。 ・場合によっては、グループ分けについて事前に児童に個別で相談をしておく。
<p>⑫⑬⑭お店をつくる。【3時間】</p> <p>○することを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大きく分けて、「遊びかざりづくり」「ブースづくり」「練習」の3つ。 <p>○グループに分かれて、お店づくりをする。</p> <p>◆イー②〈行動観察・発言分析〉</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 20px;"> <p><u>□自分のつくりたい遊びやかざりを、形にすることが難しい。</u></p> <p>◇他の児童がつくっている遊びやかざりについて、他の児童に伝える。それにより、児童は自分のつくりたいものに近いものを選び、つくることができる。</p> <p>「持って帰れるように、どんぐりのかざりにひもを付けている人がいるよ。」</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 20px;"> <p><u>□自分のつくりたい遊びやかざりを、形にすることが難しい。</u></p> <p>◇前時のワークシートをふり返り、自分のつくりたい遊びやかざり（思いや願い）を想起させる。また、具体的なつくり方や遊び方を一緒に考えたり、例示したりする。それにより、児童は自分のつくりたいものに近いものを選び、つくることができる。</p> <p>「『木の枝で輪投げが作りたい。』って書いたんだね。それなら、枝を使って輪を作ればよいんじゃないかな。やってみようよ。」</p> <p>「どんぐりに穴を開けたらいいんじゃないかな。こうやってやるとできるよ。」</p> <p>「葉っぱにボンドを付けてこうやってはるといいんじゃないかな。」</p> </div>

<p>○2年生や保育所の子を招待できるところまでお店が完成したかを考える。(一斉指導)</p> <p>☆お客様(先生)が困っていた。</p> <p>☆このままでは、2年生を招待できないかもしれない。</p> <p>☆このままでは、保育所の子が楽しめないかもしれない。</p> <p>↓</p> <p>◎友達に遊んでもらって、アドバイスをもらいたい!</p> <p>↓</p> <p>◎そのために、自分の作った遊びやかぎりについて、友達に知ってもらいたい!</p>	<p>◇児童の「保育所の子が楽しめる」に向かうような工夫を見つけ、価値付けする。そして、次時以降の「くふうのわざ」の視点につなげる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・きれい・秋らしい・数をふやす ・わかりやすい・楽しい・じょうぶ ・プレゼントなど <p>◇お店がある程度完成したグループに対して、教師が客として遊びにいき、まだ工夫できる点があることに気づかせる。</p>				
<p>⑯自分の遊びやかぎりについて振り返り、説明する【1時間】</p> <p>○自分のつくった遊びやかぎりについて、ワークシートに書く。(遊びやかぎりの名前、ルール、くふうポイント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・くふうポイント…「保育所の子が楽しめる」ための工夫。 ・くふうのわざ…くふうポイントの視点。 <table border="1" data-bbox="103 1044 865 1706"> <tr> <td style="vertical-align: top; padding-right: 10px;">くふうポイント予想</td> <td> <p>☆葉っぱに色を塗った。絵を描いた。(きれい)</p> <p>☆赤や黄色の葉っぱを並べて、きれいにした。(きれい・秋らしさ)</p> <p>☆たくさんあそべるように、こまをたくさん作った。(数・量)</p> <p>☆何度も遊べるように、葉っぱの魚をたくさんつくった。(数・量)</p> <p>☆何人も遊べるように、枝の釣りざおをたくさん用意した。(数・量)</p> <p>☆どんぐりごまを回せるように、横について教えてあげる。(わかりやすい)</p> <p>☆遊び方を紙に書いて貼った。(わかりやすい)</p> <p>☆遊び前にお手本をしてあげる。(わかりやすい)</p> <p>☆こまを手で回せるようにした。(楽しい)</p> <p>☆けん玉のカップを、いろいろな大きさにした。(楽しい)</p> <p>☆保育所の子が着られる服を作った。(楽しい)</p> <p>☆壊れないように、テープを巻いた。(丈夫)</p> <p>☆プレゼントを作って、あげる。(プレゼント)</p> <p>☆葉っぱやどんぐりでプレゼントを作る。(プレゼント・秋らしさ)</p> </td> </tr> </table>	くふうポイント予想	<p>☆葉っぱに色を塗った。絵を描いた。(きれい)</p> <p>☆赤や黄色の葉っぱを並べて、きれいにした。(きれい・秋らしさ)</p> <p>☆たくさんあそべるように、こまをたくさん作った。(数・量)</p> <p>☆何度も遊べるように、葉っぱの魚をたくさんつくった。(数・量)</p> <p>☆何人も遊べるように、枝の釣りざおをたくさん用意した。(数・量)</p> <p>☆どんぐりごまを回せるように、横について教えてあげる。(わかりやすい)</p> <p>☆遊び方を紙に書いて貼った。(わかりやすい)</p> <p>☆遊び前にお手本をしてあげる。(わかりやすい)</p> <p>☆こまを手で回せるようにした。(楽しい)</p> <p>☆けん玉のカップを、いろいろな大きさにした。(楽しい)</p> <p>☆保育所の子が着られる服を作った。(楽しい)</p> <p>☆壊れないように、テープを巻いた。(丈夫)</p> <p>☆プレゼントを作って、あげる。(プレゼント)</p> <p>☆葉っぱやどんぐりでプレゼントを作る。(プレゼント・秋らしさ)</p>	<p>◇次時に、友達に遊んでもらうために、自分たちの遊びの説明をすることを伝える。</p> <p>◇児童の説明の後、児童とともにくふうポイントを分類していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・きれい・秋らしい・数をふやす ・わかりやすい・楽しい・じょうぶ ・プレゼントなど <p>↓</p> <p>◇これらを、「くふうのわざ」として児童に伝える。次時までに、これらを紙にまとめて掲示物にしておく。</p> <p>◇遊び合いの仕方を伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全グループを2つの班に分ける。 (例えば、8グループあれば、 ①②③④ ⑤⑥⑦⑧ と分ける。) <table border="0" data-bbox="992 1403 1214 1437"> <tr> <td style="text-align: center;">A班</td> <td style="text-align: center;">B班</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・A班の人はB班のお店で遊び、付せんを書く。(10分) ・A班の人は書いたことを、B班の人に伝える。(3分) ・交代して同じように行う。(13分) ・13分×2=26分で行う。 	A班	B班
くふうポイント予想	<p>☆葉っぱに色を塗った。絵を描いた。(きれい)</p> <p>☆赤や黄色の葉っぱを並べて、きれいにした。(きれい・秋らしさ)</p> <p>☆たくさんあそべるように、こまをたくさん作った。(数・量)</p> <p>☆何度も遊べるように、葉っぱの魚をたくさんつくった。(数・量)</p> <p>☆何人も遊べるように、枝の釣りざおをたくさん用意した。(数・量)</p> <p>☆どんぐりごまを回せるように、横について教えてあげる。(わかりやすい)</p> <p>☆遊び方を紙に書いて貼った。(わかりやすい)</p> <p>☆遊び前にお手本をしてあげる。(わかりやすい)</p> <p>☆こまを手で回せるようにした。(楽しい)</p> <p>☆けん玉のカップを、いろいろな大きさにした。(楽しい)</p> <p>☆保育所の子が着られる服を作った。(楽しい)</p> <p>☆壊れないように、テープを巻いた。(丈夫)</p> <p>☆プレゼントを作って、あげる。(プレゼント)</p> <p>☆葉っぱやどんぐりでプレゼントを作る。(プレゼント・秋らしさ)</p>				
A班	B班				
<p>○それぞれのグループの遊びやかぎりの説明をする。</p> <p>○くふうポイントをパワーアップさせるために、次時に遊び合いを行うという見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「パワーアップ」…「保育所の子が楽しめる」遊びやかぎりにするための改善。 	<p>◇付せんにくふうポイントさらにパワーアップさせるアドバイスを書き、相手のワークシートに貼っていくことを伝える。</p> <p>◇事前に作った「パワーアップのわざ」の掲示物を黒板に貼り、パワーアップさせるアドバイスの視点を伝える。</p> <p>◇本時でアドバイスしてもらった事をもとに、次時に作り直すことを伝える。</p>				

⑯遊び合い、アドバイスをし合う。【1時間】(本時)

○くふうポイントをパワーアップさせるために、遊び合いを行うという見通しをもつ。

○遊び合いの仕方の説明を聞く。

○互いの遊びやかざりで遊ぶ。遊びながら、付せんにくふうポイントをパワーアップさせるアドバイスを書き、友達のワークシートに貼る。

くふう
ポイントの
パワーアップ
予想

- ☆葉っぱや枝やどんぐりに、色を塗ったらきれいなのでよい。絵を描いたらよい。(きれい)
- ☆道具をきれいに並べるとよい。(きれい)
- ☆看板に、葉っぱの飾りを付けると、秋らしくてよい。(きれい・秋らしさ)
- ☆こまが少ないので、もっと作ったほうがよい。(数・量)
- ☆何人も遊べるように、釣りざおをたくさんつくったほうがよい。(数・量)
- ☆ルールを紙に書いた方がよい。(わかりやすい)
- ☆遊ぶ前にお手本をしてあげた方がよい。(わかりやすい)
- ☆遊ぶときに横にいて教えてあげるとよい。(わかりやすい)
- ☆けんだまのひもはもっと長いほうがよい。(楽しい)
- ☆輪投げの的に点数を付けた方がよい。(楽しい)
- ☆楽器はいろいろな種類があった方が楽しい。(数・楽しい)
- ☆どんぐりや葉っぱで作った首かざりは、プレゼントしてあげると嬉しいと思う。(プレゼント)
- ☆プレゼントをするには、かざりの数が少ないので作った方がよい。(数・プレゼント)

◆イー② 〈行動観察・発言分析・記述〉

○自分の遊びやかざりについて、友達が書いてくれた付せんを読む。

○振り返りをワークシートに書く。(つくりなおしたいこと、わかったことやうれしかったこと)

◆ウー② 〈行動観察・発言分析・記述〉

⑰アドバイスをもとに作り直す。【1時間】

○前時の付せんやワークシートをもとに、グループで、自分の遊びやかざりをどのように作り直すか話し合う。

○遊びやかざりを作り直す。

◆イー② 〈行動観察・発言分析・記述〉

◆ウー② 〈行動観察・発言分析・記述〉

◎2年生に試しに遊んでもらいたい！

○作り終わったグループは、2年生招待時の練習をする。

◇遊び合いをしながら、「保育所の子が楽しめる」ためのアドバイスを考えた児童がいれば、他の児童の手を止めさせ、取り上げて価値付けをする。

「赤や黄色の葉っぱを並べてかざると、保育所の子が楽しめると思ったんだね。秋らしさが伝わるからよいね。」

↓

「他の遊びでも、秋らしさが伝わるようなくふうはないかな。魚釣りでは、どんな工夫があるかな。」

◇本時でアドバイスしてもらった事をもとに、次時に作り直すことを伝える。

◇前時の付せんやワークシートを振り返らせる。

<p>⑩2年生を招待して遊んでもらう。【1時間】</p> <p>○前時までの学習を振り返る。 ○2年生に遊んでもらう。 ○ふり返りをワークシートに書く。</p>	
<p>⑪お店を作り直す【1時間】</p> <p>○前時の2年生招待の感想をもとに、作り直す。 ○保育所の子に楽しんでほしい！</p>	

3次 あきのたからものランドを開いて、保育所の子を楽しませよう！（3時間）
【つくった遊びやかぎりで遊んでもらうことで、自分の成長に気付く。】

子どもの学習活動	予想される児童の姿
<p>○活動 ☆気付き ◎願い ◆評価</p> <p>⑫⑬あきのたからものランドを開く。【2時間】</p> <p>○前時までの学習をふり返る。</p> <p>○「あきのたからものランド」への思い・願いをふり返る。</p>	<p>◇予想される児童の姿</p> <p>◇教師の働きかけ</p> <p>◇掲示物を指し示し、単元の初めからの学習をふり返らせる。そのとき、児童が自分たちの成長を実感できるようにする。 「気付いたことがたくさん書けるようになったね。」「保育所の子が楽しめるために、一生懸命工夫を考えたね。」「グループの友達と、一緒に話しながらつくれたね。」</p> <p>◇「保育所の子が楽しめる」ために、今まで工夫をしたり、友達同士でアドバイスし合ったということを振り返らせる。</p>

ほいくしょの子が楽しめる あきのたからものランドをひらこう！

<p>○「あきのたからものランド」の準備をする。 ○保育所の児童を迎える。 ○1年生代表のあいさつをする。 ○「あきのたからものランド」のやり方の説明を聞く。 ○遊ぶ</p> <p>◆アー③〈行動観察・発言分析・記述〉 ◆イー③〈行動観察・発言分析・記述〉</p> <p>○1年生代表のあいさつをする。 ○保育所の児童を見送る。</p>	<p>◇「あきのたからものランド」の準備を支援する。</p> <p>◇「あきのたからものランド」やり方を説明する。</p>
<p>⑭ふり返りをする。【1時間】</p> <p>○「あきのたからものランド」をして気付いたことをワークシートに書く。 (わかったこと、できるようになったこと)</p>	<p>◇今までの学習を、掲示物などを使って想起させる。</p>
<p>A ☆何回もつくって楽しかった。（自分の成長） ☆みんなで考えたからいいものができた。（自分の成長） ☆一生懸命つくったからよかったです。（自分の成長） ☆大変だったけど、保育所の子に喜んでもらえてよかったです。（自分の成長）</p> <p>B ☆楽しかった。</p> <p>◆イー③〈行動観察・発言分析・記述〉</p> <p>○グループ交流をして、友達の気付いたことを知る。また、友達へ思ったことを伝える。 ↓</p> <p>○ほかの遊びやかぎりも作ってみたい。 ○冬のどんころ野外学校の探検が楽しみだ。</p>	<p>◇今までの学習に向かう姿を想起させ、価値づける。</p>

5 本時の学習

(1) 本時の目標

- 自分や友達が考えた遊びやかぎりのよさや、よりよくするような工夫を考え、付せんに書くことができる。

【イ 活動や体験についての思考・表現】

- 友達からのアドバイスを読んだり、今までの自分の遊びやかぎり作りを想起したりして、自分の遊びやかぎりをよりよくしようとしている。

【ア 生活への关心・意欲・態度】

(2) 本時の展開 (22時間扱いの16時間目)

時間	主な学習活動	◇教師の働きかけ ◆評価
1分	①前時までの学習を振りかえる。	◇前時までの学習を、掲示物をもとにふり返らせる。 ほいくしょの子が楽しめる あきのおまつりランドをひらこう！
2分	③ 本時の学習内容を確認する。 ・「保育所の子が楽しめる」あきのおまつりランドを開くために、作った遊びやかぎりを1年生同士で遊び合い、アドバイスをし合うという見通しをもつ。	◇「保育所の子が楽しめる」ために、アドバイスし合って、お店をパワーアップさせるということを意識づける。 かだい おみせを パワーアップするために、 <u>アドバイスしよう！</u>
2分	③遊び合いの仕方の説明を聞く。 ・全グループを2つの班に分ける。 (6グループを、①②③ ④⑤⑥ と分ける。) A班 B班 ・A班の人はB班のお店で遊び、付せんを書く。(10分) ・A班の人は書いたことを、B班の人に伝える。(3分) ・B班の人はA班のお店で遊び、付せんを書く。(10分) ・B班の人は書いたことを、A班の人に伝える。(3分) ・13分×2=26分で行う。	◇遊び合いの仕方を伝える。 ◇黄付せんにいいねポイント、赤付せんにお店をパワーアップさせるアドバイスを書くことを伝える。 ◇事前に作った「いいねポイント」の掲示物を黒板に貼り、アドバイスする視点を伝える。 ・きれい ・秋らしい ・数をふやす ・わかりやすい ・楽しい ・じょうぶ ・プレゼント ・かわいい など ◇本時でアドバイスしてもらった事をもとに、次時に作り直すことを伝える。
26分	④互いの遊びやかぎりで遊ぶ。 ・遊びながら、付せんによりとこやアドバイスを書き、友達のワークシートに貼る。(10分) くふうポイントのパワーアップ予想 ☆葉っぱや枝やどんぐりに、色を塗ったらきれいなのでよい。絵を描いたらよい。(きれい) ☆道具をきれいに並べるとよい。(きれい) ☆看板に、葉っぱの飾りを付けると、秋らしくてよい。(きれい・秋らしさ) ☆こまが少ないので、もっと作ったほうがよい。(数・量) ☆何人も遊べるように、釣りざおをたくさんつくったほうがよい。(数・量) ☆ルールを紙に書いた方がよい。(わかりやすい) ☆遊び前にお手本をしてあげた方がよい。(わかりやすい) ☆遊びときに横について教えてあげるとよい。(わかりやすい)	◇遊び合いをしながら、「保育所の子が楽しめる」ためのアドバイスを考えた児童がいれば、他の児童の手を止めさせ、取り上げて価値付けをする。 「赤や黄色の葉っぱを並べてかざると、保育所の子が楽しめると思ったんだね。秋らしさが伝わるからよいね。」 ↓ 「他の遊びでも、秋らしさが伝わるようなくふうはないかな。魚釣りでは、どんな工夫があるかな。」

<p>くふう ポイントの パワーアップ 予想</p>	<p>☆けん玉のひもはもっと長いほうがよい。(楽しい) ☆輪投げのために点数を付けた方がよい。(楽しい) ☆楽器はいろいろな種類があった方が楽しい。(数・楽しい) ☆どんぐりや葉っぱで作った首かざりは、プレゼントしてあげると嬉しいと思う。(プレゼント) ☆プレゼントをするには、かざりの数が少ないからもっと作った方がよい。(数・プレゼント)</p>	<p>□アドバイスを考えることが難しい。 ◇掲示された「パワーアップのわざ」を示して、アドバイスを考えるための視点を伝える。そうすることにより、ことができる。 「見た目を秋らしくきれいにするために、パワーアップできることはないかな。」「もっとたくさんあったら、楽しくなりそうじゃない?『数を増やす』だね。」 ◇他の児童が書いた付せんの中から、よいと思った物を選ばせる。できれば、それを選んだ理由を考えさせる。そうすることにより、児童は自分なりの工夫を考えたり、理由をもってアドバイスを考えたりすることができる。 「〇〇くんは、『首かざりをプレゼントするとよろこぶ。』と書いているよ。どう思う?」</p>
<p>1 0 分</p>	<p>◆イー② 〈行動観察・発言分析・記述〉</p> <ul style="list-style-type: none"> 書いたことを伝える。(3分) 交代して同じように行う。(13分) 	<p>◆遊びやかざりをよりよくするような工夫を考え、付せんに書いている。 【イー② 〈行動観察・ワークシート〉】</p>
<p>1 0 分</p>	<p>⑤友達が書いたふせんを見て、振り返りをワークシートに書く。(さらによくしたいこと、感想)</p> <p>A</p> <p>☆〇〇くんに、看板に葉っぱでかざりをつけたほうがよいと言つてもらつた。やってみようと思う。 ☆〇〇くんに言ってもらつて、こまのつまようじをもっと短くしようと思った。 ☆どんぐりに顔をかいたのがいいねと書いてもらつた。嬉しかつた。顔をかいて、かわいくなつてよかつた。 (<u>さらによくしたいという気持ちや、自分の遊びやかざりに自信をもつ気持ちが書かれており、その理由や、友達がアドバイスしてもらったことなども書かれている。</u>)</p> <p>B</p> <p>☆喜んでもらつてよかつた。 ☆次の時間に作り直すのが楽しみ。 (<u>さらによくしたいという気持ちや、自分の遊びやかざりに自信をもつ気持ちが書かれている。</u>)</p>	<p>□自分の気付きを言語化できていない。 ◇児童と話をしたり、付せんを見て、アドバイスしてもらった事を思い出したりする。それにより、児童は、自分がよいと思ったアドバイスや、自分の遊びやかざりのよいところを想起することができる。 「『けん玉のヒモがもっと長い方がよかつた。』って書いているね。どうしようか。」「『葉っぱが色がたくさんあってきれいだね。』って書いてもらつたね。どう思った?」 ◇他の児童のワークシートを見に行き、自分の考えに近いものを見つけ、選ぶようになる。それにより、児童は自分の気づきを自覚し、言語化することができる。 「〇〇くんは、『次は葉っぱに絵を描こうと思う。』って書いているね。」</p>
<p>4 分</p>	<p>◆アー② 〈行動観察・発言分析・記述〉</p> <p>⑥振り返りを交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自由交流で、友達の考えたことを知る。 自由にペアを作り、じゃんけん→勝った人が話す→負けた人が話す→互いのワークシートに〇をかく、の順で行う。 〇を2つ以上もらうことが目標。(〇が増えるほど、さらにパワーアップできる。) 	<p>◇振り返りが書き終わった児童が半数以上になつたら、書けた児童から交流をするように指示する。</p> <p>◆さらによくしたいという気持ちや、自分の遊びやかざりに自信をもつが楽しみだという気持ちをワークシートに書いている。 【アー② 〈行動観察・ワークシート〉】</p>